

## 2 太平洋側（平野）の農業例

宮城県大崎地域

世界農業遺産

日本農業遺産

### 「持続可能な水田農業を支える『大崎耕土』の伝統的水管理システム」

この地域は伝統的な稲作地帯ですが、冬は北西からの冷たい風、夏は東北の太平洋側に特有の北東の北風「やませ」による冷害や地形によって引き起こされる洪水、濁水に長年にわたり悩まされてきました。その結果発達した巧みな水管理の仕組みや屋敷を守る林「居久根」などにより、災害に強い農業・農村をつくってきました。



水田と水路、屋敷林「居久根」がつなぐ大崎耕土



宮城県大崎地域  
(認定地／大崎市、色麻町、加美町、涌谷町、美里町)

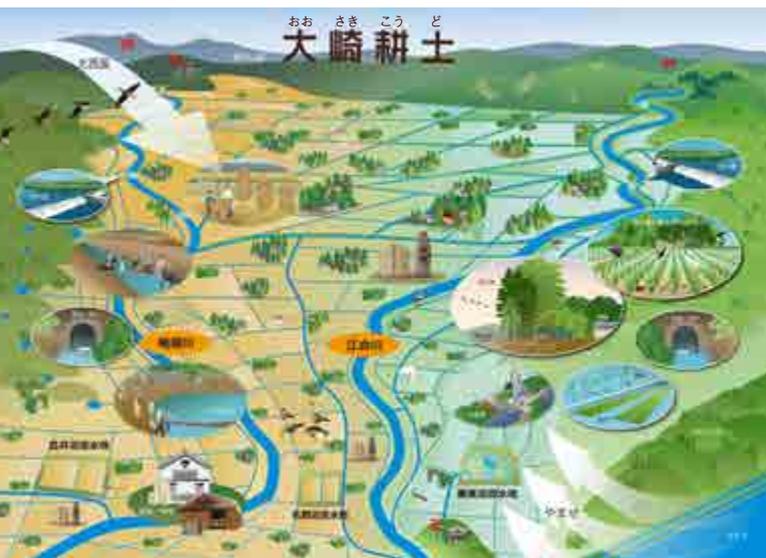
#### 豆知識

「居久根」ってなんだろう？

水田に浮かぶ森のように見える屋敷林「居久根」とは、イは「住居」、クネは「垣根」を意味し、冬の季節風（北西の風）から母屋や畑を守るため幾重にも樹木が植えられた林です。ここでは稲の害虫の天敵となるカエルなどの生きものも数多く生息しています。また、天災や飢饉に備えて実のなる木が多く植林され、屋敷内には身近な野菜の栽培を行ったり、野菜の保存に使ったりする庭もあります。厳しい自然条件の中で生活する人々の知恵です。



水田に浮かぶ「居久根」



#### ◆大崎地域の地形

2つの川の流域に広がる湿地を水田として利用することで、水田農業地帯として発展してきました。他方で、「やませ」による冷害や急こう配の山間部から流れ出る水による洪水や濁水が度々起きている地域です。しかしながら、農家は、厳しい自然環境で食料と生計を維持するため、「水」の調整に様々な知恵や工夫、多くの苦労を重ねながら、稲作を中心とした水田農業を発展させ、「大崎耕土」と称される作物が豊かに実る大地を継承してきました。

#### ◆伝統的な水の管理

江戸時代から大崎耕土を流れる江合川・鳴瀬川の河川流域に約1,200か所に及ぶ「取水堰」や「用排水路」「ため池」「遊水地」などが設けられ、現代でも受け継がれています。取水堰は、河川から農業に使うための水を引き入れるための仕組みです。

どんな  
仕組みかな？

